



東京都美術館 × 東京藝術大学

とびらプロジェクト

「ライぶらり」は「とびラー」のアイデアから生まれました。

「ライぶらり」は東京都美術館と東京藝術大学の連携事業「とびらプロジェクト」に所属するアート・コミュニケータ(愛称:とびラー)によって編集されています。

「とびらプロジェクト」とは、美術館にあったらいいなと思える活動を、広く一般から募集したとびラーと、学芸員や大学教員がフラットな立場で考え実行するプロジェクトです。とびラーの活動はボランティアですが、サポーターではなく、美術館から生まれる新しい暮らしの形、アート・コミュニティをつくりあげるプレーヤーとして活躍する人々です。世代や職種を越えて集まったとびラーが生み出す様々な活動によって、来館した多くの人々の美術館での体験がより深く、充実したものとなることを目指しています。

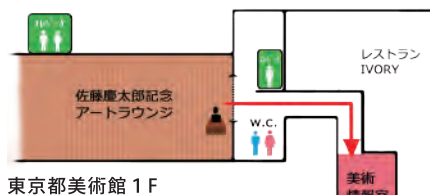
とびラーの活動について更に詳しい情報はウェブ・サイトをご覧ください。

とびらプロジェクト 検索 <http://tobira-project.info/>



<美術情報室について>

美術情報室の資料は、どなたでも自由に閲覧することができますが、貸出は行っておりません。詳しいご利用方法については、別紙「ご利用案内」をご覧ください。



東京都美術館 1F

ライぶらり vol.6

日本美術院再興100年 特別展
「世紀の日本画」 編

2014年3月8日

発行：とびらプロジェクト
編集：とびラー（小野寺伸二、山本あつこ、目黒苗、吉川貴子、筒井彩、佐藤史、鈴木朝子）

「ライぶらり」は東京都美術館のアート・コミュニケータ(愛称:とびラー)がお送りする不定期発行の情報紙です。



東京都美術館に関連した
書籍を紹介する情報紙

ふらり

日本美術院再興100年 特別展 世紀の日本画 編 前期 1.25~2.25 後期 3.1~4.1

美術情報室で アートを読もう！

東京都美術館の1階に
美術情報室という
図書室があるのはご存知でしょうか？

落ち着いた雰囲気の中で
本を楽しむことができます。

おすすめ書籍一覧

「日本美術院百年史」

日本美術院百年史編纂室(編), 1989~1999年・2004年

日本を代表する日本画の美術団体である日本美術院。その100周年までの、いわば公式記録集。展覧会(院展)の記録、参加者の評伝、講演記録、論文など、さまざまな記事が収録されており、日本美術院の研究には欠かせない全15巻19冊!(第1巻から第3巻までは上巻・下巻に分かれており、「索引」も1冊ある。)ぱらりとめくるだけでも、歴史の一端に触れることができます。

日本美術院満載度 ★★★
全巻読破は大変度 ★★★
運搬に腕力必要度 ★★★

生誕120年記念

「岡倉天心と日本美術院展」

朝日新聞社 東京本社 企画部(発行), 1982年

天心の生誕120年を記念して昭和57年に開催された展覧会の図録。詩人であり志士であり卓抜な批評家であった天心は、明治人による明治新美術の育成に心をくだきました。この図録では、彼の創設した日本美術院の歩みと共に、天心の播いた種が育っていった軌跡を俯瞰して見るすることができます。「岡倉天心ゆかりの品々」の章は、お宝写真が満載。天心の直筆画や画家たちの集合写真にひきこまれます。

岡倉天心大好き♡度 ★★★
日本美術院満載度 ★★★
時代の息吹を感じる度 ★★★

現代の日本画 第12巻

「平山郁夫」

川口直宜(責任編集), 1990年

全12巻からなる「現代の日本画」シリーズの1冊。全巻を通じて、多くの図版が掲載されています。作家がどのような人物であったのか、どのように世界を見ていたのか、作品や平山氏自身の文章を通して感じとれる点がオススメです。平山郁夫の他に、片岡球子、奥村土牛、小倉遊亀など本展(後期)に出品されている作家の巻も手に取ってみてください。

気軽に楽しめる度 ★★★
作品メイン度 ★★★
作家理解度 ★★★

「ライぶらり」で掲載しているおすすめ書籍は、すべて東京都美術館内1F美術情報室で閲覧が可能です。ぜひお気軽に足をお運びください。

「日本美術を見る眼」

高階秀爾(著), 1991年

時に西洋から多大な影響を受けながら、今日まで培われてきた「日本美術」とは…? 西洋美術史の第一人者が西洋と日本の造形作品を様々な角度から比較検討し、日本美術の特質をあぶり出します。日本人の美意識に潜む精神性が明快な言葉で解説され、読後にすっと「腑に落ちる」感覚が得られること請け合いです!

展覧会関連度 ★☆☆
説得力ある～度 ★★★
がっつり読書度 ★★★

「横山大観の世界」

横山大観記念館(監), 2006年

大観のファンはもちろん、「名前は聞いたことあるけど、作品は…」という貴方にもオススメ。革新してこそ伝統と考え、常に挑戦的な試みを続けた大観。本書では一作ごとに新境地を見せるその創造の旅が美しい作品図版とその解説により垣間見られます。酒を愛し、動物好きな、孫や親しい人々から見た素顔にも触れ、巨匠を身近に感じられる嬉しい一冊です。

カラー図版度 ★★★
やさしい解説度 ★★★
孫目線度 ★☆☆

「世界の中の日本絵画」

平山郁夫・高階秀爾(著), 1994年

作品編と対論編の2部構成。作品編では、113点の日本名画を1点ずつ海外作品と比較しながら紹介しています。同じ主題を扱っているものや、表現の類似性が見い出せるものなど、とにかく見ていて楽しめるものばかり。対論編では、日本美術・文化の特質を世界と比較することで多角的に論じられています。日本の美術を見直すことで、展覧会がもっと楽しくなるはず!

表紙のインパクト度 ★★★
比べて分かる日本発見度 ★★★
共通点にワクワクする度 ★★★